

# 令和5年度 府中市立府中第八小学校学校経営計画

令和5年 4月 1日

校長 松下 雄太

## (教育目標)

人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す。

### ○「学び続ける子」

自ら主体的に考え、問題を粘り強く解決していく能力や態度を育成する。

### ◎「仲良く助け合う子」(重点)

人権を尊重し、お互いを認め励まし合う温かな心や、他人を思いやる心を育成する。

### ○「たくましい子」

自ら健康を保ち、体力づくりに取り組む態度と実践力、根気強さを育成する。

## 1 目指す学校像

創立67年の歴史と伝統を受け継ぎながら、ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる。保護者、地域の信頼に応え、教育目標である知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

### (目指す学校)

#### (1) 『子供たちのための学校』として、子供が第一の学校づくりを推進します。

##### 毎日元気に楽しく生活し、よさを伸ばす学校 『人に優しく、自分に強く』

###### ○子供たち一人一人を大切に見守る学校

・子供たちが安心して学べる学校(仲良く助け合う友達、話を聞いてくれる先生)をつくります。

###### ○よさや可能性を引き出す学校

・「やれば(成長)できる」ときめ細かく支援し、子供たちが自ら主体的に学ぶ姿勢を育みます。

#### (2) 教職員が、『チーム八小』として協働する学校づくりを推進します。

##### 教職員が協働して、子供たちの成長を支える学校 『八小の子はみんなの子』

###### ○教職員が互いに協働する学校

・子供たちの健全な成長に向けて教育活動の推進、保護者との連携に誠実に取り組みます。

###### ○教職員が互いに高め合う学校

・子供たちのために授業改善や指導力向上に向けて自己研鑽に励みます。

#### (3) 保護者・地域と連携する学校づくりを推進します。(連携してこそ教育の効果があがります)

##### 保護者・地域と共に、子供たちを育てる学校 『共育(ともいく)』

###### ○学校の役割(学力や体力の向上、豊かな情操の育成、規範意識の醸成)

###### ○家庭の役割(子供たちの心の支え、愛情を注がれ温かく見守られる教育—家庭教育)

###### ○地域の役割(学んだことを社会の中で実践する教育—ふるさと府中を愛し世界にはばたく)

## 2 中期的目標と方策

教育目標の実現に向けて、次の5点を中期目標とする。

### (1) 「令和の日本型教育の構築」に向けて、教員の指導力の向上を図る。

- ・ 校内研究を通して、教員が主体的に研鑽に励み、学校全体の教育力を向上させる。
- ・ 自己の強みを確立し、先見性に富み、専門性の高い教員を育成する。
- ・ 児童に生きる力を育成するため、深い学びのある授業を提供する。
- ・ 一人一人の児童に、確かな学力を定着させる教育を推進する。
- ・ 保護者や地域、児童から信頼される教員を育成する。「教育は人なり」
- ・ 体罰禁止、個人情報保護など、サービス事故防止を組織的に徹底する。

### (2) 豊かな心を持ち、仲良く助け合う児童の育成と教員の資質・能力の向上を図る。

- ・ 「いじめ暴力ゼロ」を目指し、児童が落ち着いて仲良く生活する学校をつくる。
- ・ 児童の人格を公平に尊重し、学校における自己有用感を高め、自己肯定感を醸成する。
- ・ 児童の成長の課題を理解し、家庭と連携して、よりよい成長へと導くよう実践する。
- ・ 「八小の子はみんなの子」という考えに立ち、全教職員で児童理解に努める。
- ・ 不登校傾向や配慮を要する児童への対応を組織的に強化する。
- ・

### (3) 健康の維持、体力の向上を図る。

- ・ 体力向上委員会を中心に、児童の体力向上に向けて組織的に取り組む。
- ・ 児童が体力の向上を実感し、主体的に体力を高めようとする取組を実践する。
- ・ 早寝・早起き・朝ごはんを推奨し、正しい生活習慣を身に付ける。
- ・

### (4) コミュニティスクールの推進

- ・ 地域と共にある学校として、保護者や地域の方々と協働する学校づくりを進める。
- ・ スクールコミュニティ協議会を中心に、保護者や地域の声を積極的に取り入れる。
- ・ 稲作活動や鼓笛活動など、特色ある教育活動を充実させ、持続可能な取組にする。
- ・ 学校便りやHPなどで、積極的に本校の教育活動を保護者や地域に発信する。
- ・

### (5) 小中連携の推進

- ・ 近隣中学校との連携を密にし、9年間を見通した教育を推進する。
- ・ 小中連携コーディネーターを中心に府中第九中学校との連携を充実させる。
- ・ 幼稚園や保育園、保育所との連携に努め、小1プロブレムの解消に努める。

## 3 本年度の取り組みの目標と方策

上記の5点それぞれについて、本年度の目標を設定する。

## (1) 教育活動の目標と方策

### ① 「深い学びのある授業づくり」を目指して教員が一丸となり研鑽に励む。

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善により、児童の学ぶ意欲と達成感を高める。
- ・ 授業のツールとして積極的にICTを活用し、深い学びのある授業改善に取り組む。
- ・ 授業公開を通して、指導技術を高め、組織による人材育成を図る。
- ・ 研究開発部を中心に、組織的にカリキュラム・マネジメントを図る。
- ・ 読書活動を推進するとともに、漢字や計算などの基礎基本の確実な定着を図る。
- ・ 少人数指導や講師、学習支援員を活用した指導により、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 服務規律を守り、体罰の禁止を徹底する。そのための研修や調査を実施する。

### ② 安心して生活し、仲良く助け合う児童を育成する。

- ・ 人権尊重教育を徹底し、互いを尊重し、助け合う人間関係に立脚した学級経営を行う。
- ・ 人との絆の中で思いやりの心を育てる体験的な教育活動を推進する。
- ・ 児童の健康・安全を第一に考え、大きなけがや事故ゼロを目指す。
- ・ いじめ防止対策基本方針に基づき、いじめの見逃しをゼロにする。
- ・ 特別支援理解教育を推進し、課題のある児童への対応や不登校対策を組織的に行う。
- ・ 保護者との連絡を密にし、共に考え、共に育てる関係を構築する。
- ・ 特別活動や集団登校を推進し、豊かに関わる中で、主体性や社会性を育む。
- ・ あいさつや正しい言葉遣い、きまりを守るなど基本的な生活習慣を指導育成する。

### ③ 体力の向上を図る。

- ・ 体力向上委員会を中心に、日常的に運動に親しむ児童の育成に取り組む。
- ・ 体育授業の授業改善を図り、運動量を確保し、体力向上を図る。
- ・ 体力テストの結果を分析し、体力向上の方策を立てマネジメントする。
- ・ 未来へつなぐ府中2020レガシー教育を推進し、伝統の継承や努力の大切さを学ぶ。

### ④ コミュニティスクールを推進する。

- ・ 地域と連携し、特色ある教育活動である稲作活動、鼓笛活動を推進する。
- ・ 学校便りやHPで本校の教育活動を発信し、一層の連携強化を図る。
- ・ 来校行事を通じて、保護者や地域の方々に教育活動を理解していただくよう努める。
- ・ おはなし会の方々など、教育支援ボランティアの力を教育活動に生かす。
- ・ 市や地域主催の行事に、児童の参加を奨励し、地域の一員としての自覚を促す。
- ・ 外部評価（アンケート、スクールコミュニティ協議会評価など）を教育活動に生かす。
- ・ 災害発生を想定した防災教育を進め、地域と連携して対応できる体制を構築する。

### ⑤ 府中第九中学校との小中連携を推進する。

- ・ 小中連携コーディネーターを中心に、年間3回の小中連携の日を充実させる。
- ・ 各教科の課題について話し合い、9年間の教育課程を見据えた連携を行う。
- ・ 秋の運動会の実施、出張授業や小中教員の実技研修など、教員間の連携を深める。

(2) 本年度の数値目標（保護者アンケート：①～④学校、⑤～⑦教職員、⑧～⑩児童）

- ① 学校の方針、教育活動、児童の様子を積極的に伝える(90%以上)
- ② 通知やメールなどで、児童の安全にしっかり取り組む(95%以上)
- ③ 児童が学習しやすい環境を整える(80%以上)
- ④ 稲作活動や鼓笛活動など特色ある教育活動を充実させる(80%以上)
- ⑤ 来校対応、電話対応、連絡帳対応を誠実に行う(90%以上)
- ⑥ 学習内容を丁寧に教え、学習意欲を高めている(90%以上)
- ⑦ 児童の声に耳を傾け、しっかり受け止めている(90%以上)
- ⑧ 子供たちは、毎日楽しく学校に通っている(95%以上)
- ⑨ 毎日10分×学年の時間、家庭で学習をしている(90%以上)
- ⑩ 子供たちは、楽しく読書に取り組んでいる(80%以上)

#### 4 予算の活用計画

(1) 府中市「学校経営支援予算」について

配当額 5,052,000円（昨年度5,052,000円）

- 学習支援員3名（1・2年算数指導補助）（体育補助）配当割合約34%
- 学校図書館支援員1名（図書室の整理整頓、担任指導補助）配当割合約12%
- 生活指導支援員4名（学級支援、児童の相談役）配当予算約52%

#### 〈取組目標〉

1・2年生で実施する算数TT指導は、ベテランの支援員を配置し担任の補助に当たる。学校図書支援員は、図書室の図書管理を行い、良好な学習環境を整える。また、児童の読書習慣の定着に向けて、図書ボランティアとの連携をさらに深め、協働して環境を整えていく。

生活指導支援員は、特別に支援を必要とする児童のサポートを行う。経験豊富な支援員を配置し、児童や保護者の相談にも対応する。支援を必要としている学年に人材を配置する。

(2) 府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当時間 1,612時間（昨年度1,708時間）

○校務改善支援3名 配当割合約100%

○業務内容

- ・副校長事務補佐・校舎職員室等環境整備・諸資料整理（ファイリング）
- ・学習支援員予算事務・諸調査報告事務
- ・教科書事務・転入転出事務・印刷事務 ほか

### 〈取組と自己評価〉

副校長や教員の業務を補佐する。副校長の校内巡視や児童への指導、教員の人材育成にかける時間を確保する。転出入関係事務、教科書関係事務などを担当することにより、教員の事務時間を軽減し、児童の学力向上及び体力向上の取組を充実させる。

### (3) 「未来へつなぐ府中 2020 レガシー予算」について

配当額 100,000円 (執行率100%)

#### 【内訳】

○講師謝礼 98,000円

○鼓笛活動備品 2,000円

### 〈取組と自己評価〉

持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育成する「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」として今年度より取り組むこととなった。本校では、鼓笛活動を中心にオリンピック・パラリンピックの精神に基づいて、鼓笛活動から豊かな国際感覚をはぐくむための選曲を行い、運動会や移杖式での発表を行う。また「ふるさと府中」に目を向け、府中の歴史について調べ学習を行ったり、稲作の体験活動を行ったりして、歴史・文化・伝統を引き継ごうとする心を育む。

### (4) 東京都「学校と家庭の連携推進事業予算」について

配当額 354,960円

#### 【内訳】

○支援員 336,960円

○スーパーバイザー 18,000円

### 〈取組と自己評価〉

経験豊富なベテランの支援員が担当する。学校生活の中で友達との関わりに困り感をもつ児童や、授業中に集中力が継続できない児童やその学級に寄り添い、きめ細かい声かけやアドバイスなどの支援を行う。また登校しぶりの児童を学校に迎える、困り感をもつ保護者の相談を受けるなど、家庭と連携して児童に寄り添う。

また、スーパーバイザーとして、今年度も本校のスクールカウンセラーが担当する。児童をきめ細かく見守り、小さなサインを見逃さずに、声をかけていくことの大切さについて、心理学の専門的な立場から、教職員が研修を受ける機会を設定する。

以上